# 友だちができたよ

氏名: 松本文美子 学校名: 田原本町立平野小学校

担当教科: 全教科 実践教科: 生活・道徳・学活

時間数: 6 時間 対象学年: 第 2 学年 人数: 27人

### 1. 教師海外研修を通して感じたこと

10日間を通して、様々な立場の方にお会いし、考えや取り組みをお聞きして、支援の形や共に生きることについて考えを深めることができた。支援の形として、「建築の技術移転」「農業においての技術協力」「景観保護」「教育制度に対する考え」などについて、日本の方が関わっていることを知り支援の幅や方法について知ることができたことは普段の教員生活の中では得られない貴重な体験であった。

また、学校訪問でもホームステイ先でも温かく歓迎していただいた。日本の文化を先に勉強していてくれ、私たちのことを知ろうとしてくれた行動の一つ一つに感動した。そして、何よりも大きい学びはは、ネパールで出会った人やできごとについて毎日、10人の先生で話し合えたことである。校種や勤務地を超え、語り合い学びを共有できたことで海外研修がより豊かなものになった。

### 2. 授業実践

### 【1】単元のテーマ・目標

ネパールの文化や人に出会い、お互いの暮らしの違いや同じところを知る。 ネパール文化に親しみ、互いの気持ちを認め合うことの大切さを考える。

### 【2】単元設定の理由

本学級の児童は、低学年ということもあり、外国の文化に触れたり外国籍の友達や人に出会ったりする経験がまだまだ少ない。そこで、自分の生活や日本の当たり前と違うものに出会ったときに、「違和感」から「差別や偏見」につながるのではなく、「相手への理解」「知ろうとする気持ち」につながる下地を子どもたちに少しでも作りたいと考えた。

また、途上国との出会いにおいては、生活の便利さだけを比較して、「日本でよかった」と安 易に流れないように、そこに暮らす人々や生活の営みを具体的にイメージできるように気を 付けたい。

自分たちと直接関わりのないネパールという国にどれだけ興味をもち身近な国として考えていけるかが大切になってくるために、ネパールの授業に入る前の1学期に白地図を用意し、世界のものに出会うたびに色をぬっていく取組を始めた。着ている服のタグや給食のメニューなどから「世界探し」を始め、ネパールだけでなく、世界と自分たちの生活のつながりについても意識させたい。教材としては、授業者の経験したことをもとに、6時間構成とし、様々な場面を想定して子どもたちに自分ならどうするか、授業者を通しての自分の気持ちやネパールの方の気持ちを考えさせたい。

### 【3】展開計画(全6時間)

101			
時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1	生活科 友だちができたよ① ~ネパールへ行ったよ~ ねらい 日本とネパールの違いを想像し、ネパールの文化に興味に触れる。	<ol> <li>ネパールの位置を確認する。</li> <li>担任とネパールでできた友達を紹介する。</li> <li>ネパールでできた友達を紹介いて数像させる。</li> <li>ネパールへいって驚いたことについて想像させる。</li> <li>3~4 人のグループごとにネパールの写真を配布し、を出していたことをがいたことをがいたことをがいる。</li> <li>テレビにそれぞれの写真を張し、聞きたことをグループごとに発表し、聞きないさいながらないさいない。</li> <li>担任が体験したことを捕捉しながら文化を紹介する。</li> <li>あいさつ、服装、ティカ、ネパール語など)</li> </ol>	世界地図 写真 - パー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
2	道徳 友だちができたよ② 〜けんかをしたよ〜 ねらい 日本とちがう食べ方や食文 化を知り、お互いに認め合 う。	<ul> <li>① 先生と友達は少し嫌な気持ちになりました。なぜだろう。ヒントの写真を提示する。ア 手で食事をしている担任</li> <li>② お互いの食べている様子をどう思ったでしょう。</li> <li>③ ロールプレイネパール人役を決め、②で考えたことを口に出していみる。それを、相手はどう感じるかを出し合う。</li> <li>④ 世界にはいろいろな食べ方があり、どれも間違いではないことを知る。</li> <li>⑤ 担任が手で食べることに挑戦した話を聞く。</li> </ul>	写真 クルタ トピー 写真
3	道徳 友だちができたよ③ 〜ちょっと困ったよ〜 ねらい 生活文化の違いを知り、お 互いの気持ちを理解しよう とする態度を育む。	<ul> <li>① ホームステイでの食事の際に、ネパリのお母さんとのやりとりで授業者が経験した不安や疑問を伝える。</li> <li>② そのときのお母さんの気持ちを想像させる</li> <li>③ 実際のお母さんの気持ちを伝える。自分の家族と対比させて考え、ネパールの風習や文化を知る。</li> </ul>	写真
4	道徳 友だちができたよ④ ~言葉が通じないよ~ ねらい 言葉以外にも気持ちを通わ せることを知り、さまざま な国の人との交流に興味を もつ。	<ul><li>① 言葉が通じないとき、自分ならどうするかを、グループごとに考える。</li><li>② ネパリ役を決め、①で出し合った意見をもとに、さまざまな方法で伝えようとする。 伝えること</li></ul>	伝えることを書いた 紙 クルタ、トピー

		ア、トイレにいきたい。 イ、おなかがすいたよ。 ウ、家にかえってから一緒に遊ぼ う。 ③ 二人でコソコソと相談されたらどんな 気持ちがするか考える。 ④ 言葉以外で担任はどうやって実際に通 じ合ったかを想像させる。 《本、アニメ、食事、音楽、親切、笑顔な ど》	現地での写真
5	学活 友だちができたよ⑤ 〜二人で考えたよ〜 ねらい ネパールも日本も地震が多 い国であることを知り、避 難訓練について考えるとと もに、自分たちにできるこ とを考える。	① つかむ 阪神大震災、東日本大震災を知り、3 ネパールでも3年前に大きな地震があったことを知る。 ② さぐる 地震がおきたら怖いと感じる理由を出し合う ③ 見つける 両国の避難訓練などを知り、自分たちができることを考え合う。 ④ 決める 地震に備えて自分自身でできることを決定する。	写真
6	道徳 友だちができたよ⑥ ~世界中に友だちをふやそ う~ ねらい ネパールのことを知り、改 めて自分たちの学校や住ん でいる町のことを見直し、 紹介しようとする。	<ol> <li>ネパール人の友達と担任の写真をみて今までの学習を振り返る。</li> <li>いろいろな国の人と友達になれることを確認する。</li> <li>自分たちの学校や、町のよいところを出し合う。</li> <li>出し合ったことをもとにイラストに描いて掲示する。</li> </ol>	写真

## 【授業のようす】

先生にネパール人のお友だちができました!





友だちができたよ①~ネパールへ行ったよ~ ねらい 日本とネパールの違いを想像し、ネパールの文化に興味に触れる。



写真をヒントにネパールのことをグループで考えました



日本とちがうところは?町の様子、服・・・







### 児童の感想

- ・授業参観でネパールのことを勉強しました。家に帰って、ママが「たのしかったね。」と言ってくれてぼくも心がネパールでいっぱいになりました。帰ってからも、ネパールって「こうかな」、「ああかなあ」と考えていました。宿題をしながらもずっと考えていました。
- ・ネパールは旗が三角形なこともびっくりしました。
- ・ぼくはネパールのことをどんどん考えて楽しかったです。自分で答えていってやったあと思いました。

友だちができたよ②~けんかをしたよ~ ねらい 日本とちがう食べ方や食文化を知り、お互いに認め合う

友だちと先生は食べ方が少しちがったよ・・・みんなはどう思う?



友だちができたよ⑤~二人で考えたよ~ ねらい

ネパールも日本も地震が多い国であることを知り、避難訓練について考えるとと もに、自分たちにできるこ とを考える。





ネパールの友だちと地震の勉強をして、日本の避難訓練をみんなにやってもらったよ



#### 児童の感想

- ・地震は日本だけじゃないことを初めて知りました。ネパールの人と同じってわかりました。
- ・もし、地震がおこったらネパールの授業で 勉強を思い出して自分で行動したいで す。
- ・お母さんも先生と同じ阪神大震災を経験 したそうです。そのお話を家でしました。

#### 【3】成果と課題

第2時の食文化を学ぶ場面では、子どもたちは、ネパールの手で食べている人の写真を見て、「きたない」「行儀が悪い」と違和感をもったようであった。しかし、ロールプレイを通して、逆に自分の国の食べ方を批判されると、「嫌な気持ちになった」と感想をもった。そこで、さまざまな国の食べ方を知り、そこに優劣がないことを知ると自然にお互いの国の食べ方を尊重する雰囲気に変わっていった。「文化」という言葉をはっきりと認識し、違いを認め合う大切さを感じ取っている様子が印象的であった。また、日本でも手で食べるとき、箸で食べるとき、スプーンやフォークを使い分けていることにも気付くことにもなった。

授業者自身が体験したことをアレンジして授業の中で設定していったので、低学年の実態に合った課題に落とし込むことに悩んだ。子どもたちがこれから出会っていく異文化を豊かさと捉えられるようにできるだけ子どもたちの自由な発想を大切に授業を行った。様々な条件が許せば、ゲストティーチャーとして、ネパールの方との交流があっても良かったと思う。

この授業を通して、子どもたちがネパールという国を大好きになったこと、世界の中の日本という 意識が芽生えてきたことは大きな成果であったと感じている。また、自分たちの町や学校のよいとこ ろに気付き、世界の人に自慢できるのだという意識にもつながった。



2の1世界地図☆身の回りのものから世界探し



世界の人に自慢できる私たちの学校や町の すてきなところ